

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名 称	透析患者の貧血管理における季節性変動
氏 名	後町 結
所属機関	医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
<p>【目的】 血中ビタミンD濃度を含め、多施設共同研究で透析患者の貧血管理において季節性変動がみられるかを検討する。</p> <p>【方法】 研究参加施設(手稲溪仁会病院・JR札幌病院・旭川赤十字病院・帯広厚生病院・函館五稜郭病院・五稜郭ネフロクリニック・手稲ネフロクリニック・田中内科医院)において、研究期間中に外来維持透析を施行している20歳以上の成人患者を対象とした多施設横断研究を行う。</p> <p>①冬期間(2013年12月-2014年2月、2014年12月-2015年2月)と夏期間(2014年6月-8月、2015年6月-8月)に研究参加施設で行われる定期採血の結果およびドライウェイト・ESA投与量からERIを算出し、両者の比較を行う。</p> <p>②冬(2017年2月)と夏(2017年8月)に市内関連施設(手稲溪仁会病院・JR札幌病院・手稲ネフロクリニック・田中内科医院)で行われる定期採血の結果およびドライウェイト・ESA投与量からERIを算出し、両者の比較を行う。</p> <p>【結果】 2017年5月30日時点の中間報告として3施設(手稲溪仁会病院、田中内科医院、函館五稜郭ネフロクリニック)での検討について報告する。</p> <p>全体101名のうち、除外基準にのっとり、消化管出血(n=7)、頭蓋内出血(n=3)、輸血施行例(n=2)、全身麻酔下の手術を伴う入院例(n=13)、転院(n=9)、透析離脱(n=1)を除外し、65名での検討を行った。</p> <p>冬期間(2013年12月~2014年2月)と夏期間(2014年6~8月)の平均のエリスロポエチン抵抗性指数(ERI:ESA投与量/ドライウェイト・ヘモグロビン・週)をWilcoxon符号付順位和検定を用いて比較した。ERI(中央値[四分位点])は冬期間と夏期間でそれぞれ2.7[0, 7.6]μg/kg・g/dl、2.8[0, 5.9]μg/kg・g/dlであり、有意差を認めなかった(p=0.279)。CKD-MBDのコントロール指標を検討するため2014年1月と2014年7月の補正Ca値、P値、iPTH値をt検定を用いて比較したところ、2014年1月補正Ca9.04(±0.52)mg/dl、2014年7月補正Ca9.26(±0.71)mg/dlであり、有意差を認めた。(p=0.034)Ca値は夏期間で上昇しており、日照時間の影響があるかもしれないと考えた。今後は残り5施設での検討を加える予定である。</p>	